

## ADNOC における油濁防除体制

アブダビ国営石油会社 危機・非常時対応部 マネージャー  
アイエッド・アルマサービ

油流出による海洋汚染に対し、アブダビ海域は極めて脆弱であることから、危機・非常時対応チームは、異常の兆候を察すると同時に出動できるよう準備をして常時待機している。

アブダビでは、対応チームをすでに全域に戦略的に配置しており、ムサファおよびルワイスの2か所に大規模な油濁事故対応センター、アルダビヤに対応拠点を設置、ジルク島とダス島間に停泊する初期即応用の対応船を保有している。これらの基地に拠点を置くチームは十分に訓練を受けており、各操業会社のチームへの支援提供能力を有するばかりでなく、より規模の大きい段階-2事故に対応できるだけの大規模な資機材備蓄もあり、迅速に展開・対応することができる。

### 能力向上および訓練

危機・非常時対応チームは所属地において、英国航海学会（Nautical Institute of the UK）が国際海事機関（IMO）の要件を満たすと認定したプログラムで全員が十分な訓練を受けており、アブダビ海事保安協議会（Maritime Security Council）およびアラブ首長国連邦軍の協力で作成中の段階-2要件に対応するための国家プランに臨む準備が整っている。段階-1の事故対応に関しては、石油生産会社（OPCO）がその責任を果たすこととし、危機・非常時対応チームの支援を得て油濁事故対応能力を強化する。

さらに昨年、我々は、国家危機・緊急災害管理庁（National Emergency Crisis and Disaster Management Authority, NCEMA）が後援するコースも取り入れており、チームが英国で実施された各種訓練コースに参加した。また、各国から参加者が出席する UAE での各種会議およびコースにも参加している。

また危機・非常時対応チームが主要な役割を担っている演習が ADNOC の OPCO と共に社内および地方で開催された。

さらに連邦政府レベルでは、Taawn Haq 5、6 およびユニオンシールド等の NCEMA 主催の演習には、危機・非常時対応チームが ADNOC および OPCO を代表して参加した。

## 資機材

資機材に関しては、グループ内の油濁防除資機材すべてを合理化し、統一のとれた資機材にすることを目指している。これにより相互支援の能力が強化されるだけでなく、整備プログラムが改善され、規模の経済性もある程度得られる。すでに稼働中の油濁防除資機材を常時装備したエスコートタグボート数隻とは別に、現在納入待ちの油濁防除資機材および新規の高速対応船数隻は、金額にして2,700万AED（アラブ首長国連邦ディルハム）である。これら船舶の追加により、対応チームは事故現場や接近が困難な場所へも素早い展開が可能となる。

## 対応

2012年および2013年、当社の油流出対応センターはさまざまな場所で発生した事故に対応した。その一つはダス島での事故で、老朽化したハメ殺しされたパイプからの油のにじみ漏れに起因する油流出で、チームはこの事故に対応して流出した油の回収を行った。また、アブダビ首長国およびUAE沖合の区域内での発生する事故に迅速かつ効率的に対応すべく待機した。さらには、漂流油事故が2、3件報告され、危機・非常時対応チームはPPA、CICPAおよびその他外部機関との協力により、これら事故への迅速かつ効果的な対応を行った。

## 学んだ教訓

これらの事故、特にダス島の流出事故は対応チームには良い経験となった。後日行われたワークショップおよび当該事故の詳細な分析の結果、油流出対応計画についてさらに検討すべき分野があることがわかり、海岸線資機材についてもさらに必要なものがあることが判明した。